

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
0 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境					0.40				3.8
1 音環境				4.2	0.15	3.7	1.00		4.0
1.1 騒音				4.0	0.40	4.0	0.40		
1.1.1 騒音				4.0	1.00	4.0	1.00		
1.1.1.1 室内騒音レベル		ホテルロビー:NC40~45、客室:NC30~35		4.0	1.00	4.0	1.00		
1.1.1.2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音				5.0	0.40	3.9	0.40		
1.2.1 開口部遮音性能		T-2		5.0	1.00	5.0	0.30		
1.2.2 界壁遮音性能		Dr-50		4.0	-	4.0	0.30		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				3.4	0.35	3.4	1.00		3.4
2.1 室温制御				3.8	0.50	3.8	0.50		
2.1.1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2.1.2 負荷変動 追従制御性				-	-	-	-		
2.1.3 外皮性能		主な窓システムの熱貫流率1.69W/m2K、主な外壁の熱貫流率0.73W/m2K		5.0	0.25	5.0	0.43		
2.1.4 ゾーン別制御性		主要な居室は冷暖同時または個別ゾーニング分けとする		4.0	0.38	-	-		
2.1.5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
2.1.6 個別制御				-	-	-	-		
2.1.7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
2.1.8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.6	0.25	4.1	1.00		3.8
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30		
3.1.1 昼光率		ホテルロビー:3.86%、客室:2.70%		5.0	0.60	5.0	0.60		
3.1.2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3.1.3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	4.0	0.30		
3.2.1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
3.2.2 昼光制御		ロビー:ブラインド+庇、客室:庇+ロールスクリーン		4.0	1.00	4.0	1.00		
3.2.3 映り込み対策				-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		客室室内の部屋単位の点滅区分に加え、調光スイッチも設置		3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				4.4	0.25	4.3	1.00		4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63		
4.1.1 化学汚染物質		F を原則としVOCを含まないものを基本とする		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.1.2 アスベスト対策				-	-	-	-		
4.1.3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4.1.4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38		
4.2.1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/15以上		3.0	-	4.0	0.33		
4.2.3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
4.3.1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-		
4.3.2 喫煙の制御		喫煙室を2フロアに1ヶ所設置、他の空間と完全に区画されている		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.3
1 機能性				3.9	0.40	4.2	1.00		4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60		
1.1.1 広さ・収納性		一般客室37㎡×144室、特別室45㎡×1室、74㎡×5室		3.0	-	4.0	0.50		
1.1.2 高度情報通信設備対応		客室で100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能		3.0	-	4.0	0.50		
1.1.3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	4.5	0.40		
1.2.1 広さ感・景観		居室天井高2640		3.0	-	4.0	0.50		
1.2.2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
1.2.3 内装計画		自然と一体感のあるホテルの演出のため、石や木質系材料を採用		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計		温泉の腐食性ガスに対する耐久性に配慮した材料選定		4.0	0.50	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保		具体的な運営方法に合わせた機能の配置(ゴミ置場・サービスヤード等)		4.0	0.50	-	-		
1.3.3 衛生管理業務				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31	-	-		3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-		
2.1.1 耐震性				3.0	0.80	-	-		
2.1.2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.33	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP、排水VP、給湯SUS		4.0	0.15	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			2.7	0.29	2.2	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり			-	-	1.4	0.50	-
1	階高のゆとり		3.0	-	1.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性			2.7	1.00	-	-	-
1	空調配管の更新性		1.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		1.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	シャフト及び廊下天井内にケーブルラックを敷設	5.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	シャフト及び廊下天井内にケーブルラックを敷設	5.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出		環境省が推奨する樹木を使用した自生種主体の緑地	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		5) 視点風景観：敷地南東の県道から、建物を撤去して車況沿いを修景	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率90.28%、中高木水平投影面積率56.5%高温排熱の放出口の設置なし	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制		BPI=0.79	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=0.73	4.8	0.30	-	-	4.8
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR換算値=32.4%	4.8	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	-
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		内装変更を前提としたSI、事務室のOAフロア、レストランの可動間仕切	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-
1		消火剤	-	-	-	-	-
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	-
3		冷媒	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		地熱蒸気を主温熱源として利用しているため、既存設置ボイラー稼働は補助的な利用となっている。そのため排出濃度が小規模燃焼機器の窒素酸化物排出ガイドライン基準値より大幅に抑えられている(90%以下)	4.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		水冷式パッケージ形エアコンの採用(室外機の設置なし)	3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-	-
1		雨水排水負荷低減	-	-	-	-	-
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	-
3		交通負荷抑制	4.0	0.33	-	-	-
4		廃棄物処理負荷抑制	4.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1		騒音	3.0	1.00	-	-	-
2		振動	-	-	-	-	-
3		悪臭	-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-	-
3		日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	-
2		昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-